

真理通信

第 117 号 令和 6 年（2025 年）3 月 1 日発行

年 3 回(3・9・12 月)発行



すべての有情（いのちあるもの）の 亡ぶると
また 生ずるとを知りて 著（じゃく）する思いなく
善き逝（おわり）をもつ覚者（もの）
われかかる人を 婆羅門といわん
（法句経 419）

◇ 新・法句経講義 74 ◇

〈※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。〉

テレビなど見ていて、昔活躍していた俳優さんが久しぶりに出ていると、ああ、随分年とったなあなどと、少し悲しいような寂しい気持ちになることがあります。自分だって相当くたびれてしまったのを棚にあげて、あの人も変わっちゃったとか、昔はカッコ良かったとか、勝手なことを言っているものです。

諸行無常の教えのとおり、すべての人も物も、変わっていくことを、なかなか自分のこととして受け取れないのが、人というものです。

町も、物も、すべてが変わっていきます。ずっと同じものなんてありません。そして、新しいものが生まれてきます。IT 社会なんて、今から 50 年前には、想像も出来なかったものです。新しいものが出現してくることは、恐ろしいことでもあります。で

も、それも諸行無常の道理として受け取らなくてはなりません。

この法句経は、去っていく過去と、生まれてくる未来の間にあって、とらわれなく生き、また去っていく、いさぎよい人の姿、生き方を説いているように思います。

仏教豆知識 93

閼伽

閼伽（あか）という言葉は、一般にはあまり知られていないかも知れません。一方で、僧職にある方は、ほとんどがご存知だと思います。

仏前に供える水のことを「閼伽」と言います。正確には、仏前に供える物のことを言う言葉です。

「あか」の語源は、サンスクリット語の arghya、argha、ともに贈物、捧げ物の意味があります。

「閼伽水」は、密教では本尊に捧げる 6 つの供養物のひとつとして尊重され、儀式の中で大切な役割をにいます。

<主管所感>

生きる感触

友松浩志

今年の正月も、また「正月」を実感できないままに終わったように思う。と言うより、「正月」を実感できたのは、子どもの時代だけだったのかも知れない。

大晦日は真夜中まで起きていられる日で、テレビで紅白を見て、除夜の鐘を聴いて、翌朝はお雑煮を食べた。立派なおせち料理はなかったが、お年玉をもらって、親戚の家に行って、そこでもお年玉をもらった。心の中はウキウキしていた。子ども時代というのは人の原点になるものだ。その時の体験が、「生きる感触」として身体の底に座っている。

食物の好き嫌いも、子ども時代の記憶を反映しているようで、私はジャガイモが大好きだ。ジャガイモさえあれば、ご飯もパンもいらない。その原点は、母の作ってくれたポテトコロケにある。ジャガイモを蒸かして皮をむき、裏ごしし、それにひき肉と

タマネギを炒めたものをまぜる。そんな工程を、母と一緒にした。その思い出が、コロッケの味、ジャガイモの味とともによみがえる。

最近、テレビの公共CMに「子ども食堂」がよく登場する。それを見ていて、この子どもたちの「味の記憶」「生きる感触」はどうなるのだろうと思う。「子どもは社会で育てるもの」と言うが、子どもは工場で生まれるのではない。個々の親、個々の家庭に生まれるものだ。その個々の原点を大切にしたいと思う。

「保育園落ちた、日本死ね」で、大量の保育園が生まれ、もうすぐ「日本」が死にそうである。女性が働きやすい社会をつくるだけでなく、女性が生きやすい社会をつくって欲しい。「子ども食堂」に出すお金があったら、個々の家庭に、ゆとりのある時間とお金を配って欲しい。

「生きる感触」は、人が生まれ、育てられる過程で個々に与えられるものである。ある詩人は、生まれてすぐ里子に出され、里親に育てられた。大人になって、初めての詩集を出すとき、その詩集に「やさしい大工」という名をつけた。里親は、貧しい大工の家庭だったという。

◆ 新年 修正会 ◆

修正会(しゅしょうえ)は新年の平安を祈る行事です。神田寺では毎年元旦、神田寺で行なってきましたが、今年は西墓地別院で行ないました。午後2時から2階で読経のあと、1階の待合室



で懇談。参加者は少なかったものの、新年の抱負などを楽しく語り合いました。

◀西墓地別院で懇談

◆ 森の活動 ◆

真理学園幼稚園は森にかこまれた幼稚園です。その森のことを、みんなでもっとよく知るために森林インストラクターの方に指導していただきました。今回は保護者の方を対象に、森の木の生態、特に冬を生き抜く木々の姿について解説していただきました。春には子どもたちを対象に、森での自然あそびなどを指導していただく予定です。

冬の森の自然を

知る▶



墓地管理方法の変更について

昨年の10月より、附属墓地の管理方法を変更させて頂いております。管理経費の負担を減らすための処置ですので、ご理解のほどお願い申し上げます。

○ 土・日・祭日はこれまで通り、午前9時から午後5時まで、自由にお参りできます。

○ 平日のお参りは予約制です。お参りの2日前までに電話でご予約下さい。

予約電話 03-3251-8683 (墓参の日時をお知らせ下さい。)

○ お彼岸、お盆、年末年始の期間は、曜日に関わらず、上記時間にお参り出来ます。

春のお彼岸期間 3月17日(月)～23日(日)

※ ご親戚、ご友人などにも、是非この内容についてお知らせ頂ければ幸いです。

<真理ニュース>

◆彼岸会

春の彼岸会は、昨秋のお彼岸と同じかたちで実施します。

①法要参加

3月20日(木)午前10時・午後1時に、神田寺会堂で法要を行います。

・法要に参加される方は、同封の申込みハガキでお知らせ下さい。

・神田寺で法要と法話があります。お土産のお寿司の配布があります。

・両墓地まで、大型バスでお送りします。

・当日は両墓地で、読経も随時行ないます。

②塔婆供養

同封のハガキ(春彼岸会塔婆供養申込書)で、事前に受け付けます。

・先祖供養塔婆は、1本:3000円です。

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきで

お申込み下さい。(個別供養塔婆は1本:4000円です。)

・お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。(手数料なし)

③**墓地管理費**も、同封の振替用紙でご送金頂くか、墓地でお支払い下さい。

◆花まつり

お釈迦様の生誕をお祝いする「花まつり」は、本年も白象パレードなどは中止となります。8日(火)に、玄関に花御堂をお飾りします。自由に灌仏(お釈迦様の像に甘茶をかけること)が出来ます。

◆真理舎の会 (法句経による仏教講話)

今年の予定は以下の通りです。

・4月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・降誕会)

・6月13日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて

・10月10日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて

・12月12日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて(兼・成道会)

※「仏教勤行式」による読経と、友松浩志主管の仏教講話が行なわれます。

◆世界の政治状況が大きく揺れ動くなか、日本の政治状況も、

次の時代を見据えた局面に入っていくようです。冷静な判断と、未来への思考が必要な時のようです。